

資料紹介・翻刻

「哲学堂収藏品控」 1

北田建二

Kitada Kenji

解題

井上円了は、海外視察や全国巡講の際、各地より民具や神佛像といった品々を持ち帰るなど、長年かけてさまざまな品物を収集し、哲学堂の「六賢台」と「無尽蔵」と呼ばれる建物において公開していた。「哲学堂収藏品控（仮題）」は、それら円了の収藏品を書き上げたもので、東洋大学井上円了記念学術センターが所蔵する井上円了関係資料のひとつである。

本資料は、紙片を紙縫りで綴じ、冊子状に仕立てたものであるが、表紙は付けられておらず、綴じ込まれた紙の種類や型、綴じ穴の位置なども一定ではない。

また、資料の本文を見ると、その筆跡はやや乱雑であり、誤記・脱字が散見されるほか、文字を訂正・抹消した箇所もかなり目立つ。こうしたことから、正式な目録・台帳としてではなく、心覚えのためのメモか、仮目録として作成されたものと考えられる。

作者と年代については、資料中に表記されていないため、推定となるが、まず作者については、品物の入手した場所や用途など、収集した当人でないと記述が難しい情報も多く含まれることから、おそらく円了自らが作成にあたったものと思われる。年代に関しては、哲学堂に「無尽蔵」を陳列所として開設した大正四年（一九一五）以降とみて間違いあるまい。

さて、本資料には、哲学堂における収藏品の品目や数量などが配架された棚ごとに列挙されているが、こうした記載は、写真1・2の通り、綴じ紐（紙縫り）の結び目のある側だけでなく、天地を返してその反対（裏）側からもなされている。これは、品物の置かれている建物別にまとめられたからであり、書き上げら

れている品目から判断すると、綴じ紐の結び目のある側（写真1）を一丁目として書かれたのが「六賢台」、反対側（写真2）を一丁目とするのが「無尽蔵」であると考えられる。なお、後者に関しては、前欠の可能性が高い。

今回、翻刻するのは、本資料のうち、「六賢台」に置かれていた品物の目録、すなわち綴じ紐の結び目のある側から数えて一丁から二八丁までの部分である（ただし、二四丁裏から二八丁裏までは記載なし）。残りの「無尽蔵」の品物を書き上げた部分の翻刻については、本誌次号に掲載し、あわせてこの「哲学堂収蔵品控」に関する詳しい解説を載せることとしたい。

付記 資料の調査・解説にあたって、三浦節夫（東洋大学ライフデザイン学部教授）、大豆生田稔（東洋大学文学部教授）、龍澤潤（深川東京モダン館副館長）、長田直子（恵泉女学園大学講師）、加藤芳典（文京ふるさと歴史館専門員）の各氏をはじめ、多くの方々よ

りご教示をたまわりました。ここに記してお礼申し上げます。

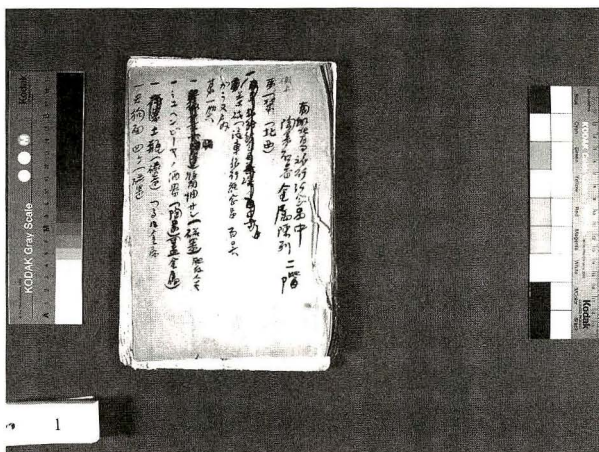


写真1 綴じ紐の結び目のある側

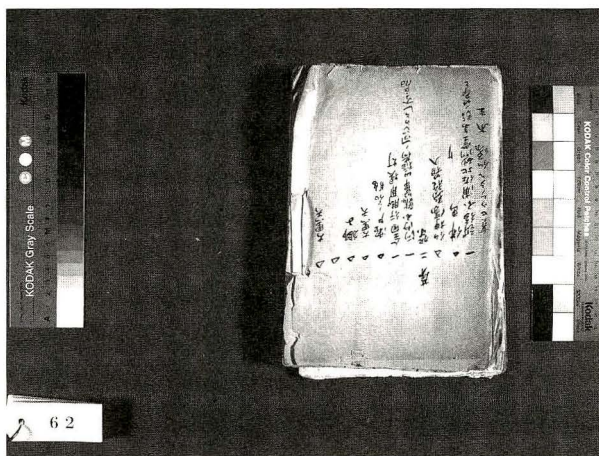


写真2 綴じ紐の結び目のある方と反対（裏）側

例言・凡例

- 一 本稿では、東洋大学井上円了記念学術センターが所蔵する「哲学堂収蔵品控（仮題）」全六一丁のうち、綴じ紐（紙縫り）の結び目がある方から数えて、一丁表から二八丁裏までを掲載した。

- 一 翻刻にあたって、各丁表・裏の最初の行の前に、【一丁表】のように丁数と表・裏を表示し、その紙面に記載が無い場合は、「記載なし」と表記した。

- 一 訂正箇所（抹消、補入等）については、訂正後の文字のみを記載した。

- 一 誤字、脱字、当て字は原本のまま翻刻し、補注をつけてこれを補った。

- 一 旧字・異体字は、原則として常用漢字に改めた。

- 一 翻刻文中に、現在では使用を慎むべき用語が見られるが、歴史的資料としての性質を考慮し、そのまま記載を行った。

- 一 資料の翻刻・注記は北田建二（東洋大学井上円了記念博物館学芸員）が行った。

翻刻

【一丁表】

- 一 南船北馬旅行記念品中
陶器石器金属陳列二階⁽¹⁾

棚上（北西）

- 一 茶腕（汽車旅行紀念品 百〇六⁽²⁾）
ガラス戸内⁽³⁾

第一架

- 一 醬油サシ（磁器）肥後人吉⁽⁴⁾
- 一 ミユヘンビージャノ酒器（陶器）（蓋金属）⁽⁵⁾

- 一 土瓶（磁器）つるハ金属

- 一 天狗面 四ヶ（磁器）

【二丁裏】

- 一 シェーキスピア石膏像

- 一 支那硯水入（磁器）

- 一 花瓶（陶器）草津製⁽¹⁾

- 一 獅仔像（陶器）床飾

- 一 茶吞茶腕 三（陶器）

一 湯呑 (陶器) 砥部焼⁽²⁾
一 油入 (陶器) 人吉⁽³⁾

一 恵比寿石膏像

一 玄武洞石⁽⁴⁾

一 湯呑 (四万製) 陶器⁽⁵⁾

【三丁表】

一 蓋 陶器 出雲国簸川郡知井宮ヨリ出デタルモノ⁽¹⁾

一 髑髏

一 台湾澎湖島石⁽²⁾

一 酒器 信楽焼 (陶器)⁽³⁾

一 花瓶 (石器)

第二架 盃類 (陶磁器) 廿四ヶ

一 達磨像 (磁器)

一 盃 (石器)

【三丁裏】

第三架右

一 貝形器物 (陶)

一 丹後竹野郡琴浜ノ砂⁽¹⁾

一 面形盃 五ヶ (陶製) 伊勢阿漕焼⁽²⁾
一 瓦片 三ヶ

一 土瓶 (陶) 琉球

一 盃 二ヶ 磁

一 プラジル土人焼物

一 土瓶酒入 (肥後人吉)⁽³⁾

一 土瓶 (サツマ酒入) 二ヶ

【三丁表】

一 急須 (有多焼) 磁⁽¹⁾

一 盃 一 (陶) (美濃赤坂)⁽²⁾

一 釜形ノ陶器

一 花瓶 肥後小岱焼⁽³⁾

一 楓葉形 (煙草灰落) 淡路オノコロ焼⁽⁴⁾

第三架左

一 茶碗 盃 十八 (石器二ヶ)

【三丁裏】

第四架

一 天狗面 (磁器) 有田焼⁽¹⁾

一 対馬巖島硯⁽²⁾

一 備前三石孕石⁽³⁾ (六ヶ)⁽⁴⁾

一 満庵石⁽⁵⁾ 丹後国船井郡産 三

一 貝殻

一 石 (文鎮)

一 捕魚具 (相州三崎)⁽⁷⁾

【四丁表】

一 急須 (四万製 (陶)⁽¹⁾)

一 馬上盃 (長州萩製)⁽²⁾

一 盃 (瀬戸製)⁽³⁾

一 石 (勿来関の石)⁽⁴⁾

一 魚形 (金属)

一 石 (文鎮)

【四丁裏】

第五架

一 貝ノ化石 五ヶ (福島県梁川町城跡ヨリ)⁽¹⁾

掘出セルモノ

一 奈良 鹿ノ角

一 赤瓦片

一 孔子墓 畔石 二ヶ

一 石 (青島)⁽²⁾ 二ヶ

一 皿 (福島県飯坂製)⁽³⁾

【五丁表】

一 瓦片

一 子抱石⁽¹⁾ 三河国南設楽大野⁽²⁾ 二ヶ

一 寶石 (美ノ赤坂)⁽³⁾

一 焼物 (全)

一 文鎮 (スズ紀念物) 金属

一 泰山絶頂ノ石ト孔子廟ノ瓦⁽⁴⁾ (瓦二、石七)

一 生蕃ノ裝飾品⁽⁵⁾

【五丁裏】

一 石、床飾

一 貝殻 (濠州 メルボルン)⁽¹⁾

一 カナリー島土人首飾⁽²⁾

一 海松 (天草牛深海中産)⁽³⁾

一、ニューギニア土人ノ首飾品⁽⁴⁾

一 貝ノ化石（江州甲賀郡佐山村より）⁽⁵⁾

一 福助ノ面

【六丁表】

一 蜘蛛貝（小笠原島産）⁽²⁾

一 貝石（——同）⁽³⁾

一 米国スタンフォルト大学礼拝堂ノ破壁

六架

一 茶腕

一 鎌

【六丁裏】

一 鉄片

一 砲弾

一 南米アルゼンチンノ馬蹄鉄

一 日露戦役三笠艦のウケタル敵弾 五ヶ⁽¹⁾

一 貝形ノ皿（陶） 二

一 懸花瓶（石）

一 貝殻付ノ懸花瓶（土）

一 生蕃ノ食器、（陶）⁽²⁾

【七丁表】

一 砲弾（西南役）⁽¹⁾

一 砲弾のケース（日本銃）

一 全（全）⁽²⁾

一 散弾（三笠艦ニウケタル敵弾）

一 石

一 骨

一 土香炉

一 石（伊豆天城山）⁽³⁾

【七丁裏】

第七架

一 薙妙鉄（出雲能郡比田村）⁽¹⁾

一 葉山細石⁽³⁾

一 土瓶

一 貝殻

一 庭石 島根県三瓶山ヨリ産スル⁽⁴⁾

一 波状を有スル岩石

一 皿の片

【八丁表】

一 瓢箪

一 向島焼⁽¹⁾

一 土器 (出雲国簸川郡智井宮ヨリ出、⁽²⁾

一 貝ノ化石 四、

一 貝 (濠州メルボルン⁽³⁾

一 貝石 (棒状)

一 貝 三ヶ

一 蜘蛛貝 三、

【八丁裏】

一 小キ貝殻 十種程

【九丁表】

一 楓葉⁽¹⁾ (印度ヒマラヤ山)

一 馱茶腕 廿一ヶ

棚内

第一架

一 台湾蕃薯石、⁽²⁾ 一、鍾乳石 (武蔵日原)⁽³⁾

一 袋田滝石⁽⁴⁾ 一、阿蘇噴火ノ奇石

一 伊豆大島火山石⁽⁵⁾

【九丁裏】

[記載なし]

【二〇丁表】

第二架

一、NORDKAP 1911⁽¹⁾

一 ミルトン草庵庭園ノ石⁽²⁾ 一 伊香保温泉石⁽³⁾

一 薯石 一 紀伊国古谷石⁽⁴⁾

一 メキシコノ石 四ヶ 一 馬関梅花石⁽⁵⁾⁽⁶⁾

一 石

第三架

一 南米アルゼンチン国ノ石

一 亜鉛石 一 髒礫石

【二〇丁裏】

[記載なし]

【二一丁表】

一 佐渡赤王石⁽¹⁾⁽²⁾ 一 石

一 石 (紀州日高産)⁽³⁾

一 勿来関ノ石、⁽⁴⁾

第四架

一 黒水晶 (伯州黒石産)⁽⁵⁾

一 十勝石⁽⁶⁾

一 薯石、(イツ大島)⁽⁷⁾

一 曲玉形石、

一 出雲ノ青瑪瑙 一 石 (美ノ国加茂)⁽⁸⁾

【一二丁裏】

〔記載なし〕

【二丁表】

第五架

一 石、 一 石 (阿波産) 一、石 (月ヶ瀬)⁽¹⁾

一 鋸山大仏前ノ鉄 一 阿波吉野川沿岸ノ石、二⁽²⁾

一 天ノ橋立ノ石、 一 貝ノ化石⁽⁴⁾

一 秋田県十和田湖ノ石、 一 箱石 (ヒダ国府産)⁽⁵⁾

一 出雲ノ砂鉄 一 広東陳氏基所ノ品⁽⁶⁾

第六架

一 亜鉛砂石 (ヒダ神岡鉱)⁽⁷⁾ 一、天ノ橋立ノ石⁽⁸⁾

一 貝ノ化石、 一、砂石 ?⁽⁹⁾

【二丁裏】

〔記載なし〕

【三丁表】

一 石 (伊豆 雷斧)⁽¹⁾ 一 石 (ヒダ国ぶ産)⁽²⁾
雷斧⁽³⁾

一 瀬戸陶器ノ原料 一 岩ノ片⁽⁴⁾

第七架

一 美ノ養老紫雲石と葡萄酒⁽⁵⁾

一 鉱石 (足尾)⁽⁸⁾ 一 多面石 (山形県小国山)⁽⁹⁾
中産

第八架

一 文鎮 (ミノ) 一 砂石 (出雲仁多郡産)⁽¹¹⁾
赤坂⁽¹⁰⁾ 出

一 床飾 人間形 (ニヶ) 一 鉱石 (越後東蒲原)⁽¹²⁾
金ゾク 津川⁽¹³⁾

一 老子像 (支那製) 一 サイズチ形、石ノ文鎮⁽¹⁴⁾

【三丁裏】

〔記載なし〕

【二四丁表】

一 梵鐘模型 曹洞宗総持寺本山ヨリ⁽¹⁾

南側

一 神社仏閣ノ守符⁽²⁾ (額面三)

一 印度婆羅門教徒御守符 (額入)⁽³⁾

一 草花 (額入) 最北夜半太陽不没ノ地ニテ⁽⁴⁾

取リタルモノ

東側

上段

汽車旅行茶碗 廿三

【二四丁裏】

〔記載なし〕

【二五丁表】

ガラス入 第一架 東

一 石

一 石

一 諸石

一 蠟石 (肥前産)

一 十勝石⁽¹⁾ 二ヶ

一 石炭

一 青石 (江州永源寺)⁽²⁾

一 美ノ養老石⁽³⁾

一 木葉石 二ヶ (下野塩原)⁽⁵⁾

【二五丁裏】

〔記載なし〕

【二六丁表】

第二架

一 砂金石 (北海道江差)⁽¹⁾

一 信夫石 (会津東山)⁽²⁾ 三、⁽³⁾

一 天狗ノ爪⁽⁴⁾

一 木葉石 (上州草津)⁽⁵⁾ 三、⁽⁶⁾

一 北海道北見国宗谷峽ニテ採集 石 七ヶ⁽⁷⁾

一 福祿寿 (伊豆大島)⁽⁸⁾

一 橋杭石 (熊野名勝)⁽⁹⁾

一 木葉石 塩原⁽¹⁰⁾ 塩原⁽¹¹⁾

【二六丁裏】

〔記載なし〕

【二七丁表】

- 一 上州伊香保温泉石⁽¹⁾

三架

- 一 伊豆ノ石、
- 一 香月硯石⁽²⁾（福岡県）
- 一 鉄砲石（能登珠洲郡⁽³⁾）
- 一 一どき石（三保ノ松原⁽⁴⁾）
- 一 化石（越中国西礪波郡田川村稲葉山⁽⁵⁾）
- 一 化石（六ヶ）
- 一 貝石（小笠原島⁽⁶⁾）

【二七丁裏】

〔記載なし〕

【二八丁表】

四架

- 一 外国諸方の石多数（凡ソ⁽¹⁾ 個）
- 五架、

- 一 天草砥石⁽²⁾ 二、

- 一 木葉石（美ノかも⁽⁴⁾）

- 一 浅間山麓ノ石、一（二）⁽⁵⁾

- 一 肥後日奈久化石⁽⁶⁾

- 一 貝ノ化石 二（岐阜県）

- 一 ノルウエーの石

【二八丁裏】

〔記載なし〕

【二九丁表】

〔記載なし〕

【二九丁裏】

〔記載なし〕

【三〇丁表】

- 一 瓦片 三、
- 一 石見断魚溪ノ石⁽¹⁾
- 一 化石（三）
- 一 クルミ石（二）
- 一 砲丸石（二）

一 蚕石、

一 エンドー石、

一 外 七石

一 矢石及ビ瓦片 (伊豆ヨリ)⁽²⁾

【二〇丁裏】

〔記載なし〕

【二一丁表】

一、ノルスケーブ太陽不没地ノ記念石⁽¹⁾

一 富士噴出石

一 鉛鉱 (ヒダ神岡)⁽²⁾

六架

一、小笠原ノ石 七ヶ⁽³⁾

一 小笠原ノ貝石 (三)

一 小笠原ノ貝、

一 笠置山ノ石 (二)⁽⁴⁾

一、二見浦ノ石 (二)⁽⁵⁾

【二二丁裏】

〔記載なし〕

【二三丁表】

一 雷斧 (北海道)⁽¹⁾

一 青瑪瑙 一⁽²⁾

一 妙高山麓ノ石 一⁽³⁾

一 隠岐島馬蹄石) 一⁽⁴⁾

一 台湾ノ化石 一

一 奈良春日ノ鹿ノ角

一 瓦片 一

一 外四品 (石)⁽⁵⁾

一 安産貝 一

【二二丁裏】

〔記載なし〕

【二三丁表】

一 八丈島ノ石 (二)⁽¹⁾

一 伊豆大島ノ火石 (十二)⁽²⁾⁽³⁾

七架

一、琉球海浜ノ貝石

一、三保ノ石 (十一)⁽⁴⁾

一 伊豆伊東ノ石⁽⁵⁾ 一

一 貝石 (美濃国土岐郡月出村貝石)⁽⁶⁾ 十二

一 石、文鎮、二本 (破壊品)

【二三四裏】

〔記載なし〕

【二四丁表】

一 銅鉢ニ水晶附着ノ石

一 佐渡ノ石⁽¹⁾ 数百

八架

一 諸外国の石 数多

一 神社仏閣参拝紀念 守符⁽²⁾ 額二枚

一 支那曲阜廟内ノ聖賢手植ノ木⁽³⁾ (額面)

【二四丁裏】

〔記載なし〕

【二五丁表】

〔記載なし〕

【二五丁裏】

〔記載なし〕

【二六丁表】

〔記載なし〕

【二六丁裏】

〔記載なし〕

【二七丁表】

〔記載なし〕

【二七丁裏】

〔記載なし〕

【二八丁表】

〔記載なし〕

【二八丁裏】

〔記載なし〕

補注

【二丁表】

(1) 井上円了口述「哲学堂案内」に、「二六賢台の」二階

の壁間には余が旅行の紀念物中、石器陶器を陳列し、又明治廿三年以来蒐集したる神社仏閣の守札数百種と、汽車中の茶吞茶碗百数十個を陳列して置いた。」とある(井上玄一編『哲学堂案内』財団法人哲学堂、一九二〇年増補改訂第三版、一四頁、〔内は引用者補〕)。

(2) 原文ママ。

(3) 括弧閉じの脱字は、原文ママ。なお、これより以降の丁における括弧開き・閉じの脱字についても、すべて原文ママで記載した。

(4) 現熊本県人吉市。肥後人吉藩の旧城下町。

(5) ミュンヘン。ドイツ、バイエルン州。

【二丁裏】

(1) 現滋賀県草津市、あるいは群馬県吾妻郡草津町か。

(2) 現愛媛県伊予郡砥部(とべ)町を産地とする磁器。

(3) 一丁表・補注4参照。

(4) 玄武洞は、現兵庫県豊岡市、岩手県岩手郡雫石町、和歌山県東牟婁郡那智勝浦町と、各地に存在する。

(5) 現群馬県吾妻郡中之条町の四万(しま)温泉か。

【三丁表】

(1) 現島根県出雲市知井宮(ちいみや)町。

(2) 台湾、澎湖諸島。

(3) 滋賀県信楽(しがらき)地方を産地とする陶器。

【二丁裏】

(1) 琴引浜。現京都府京丹後市にあり、鳴砂が有名。井上円了は『妖怪学講義』合本第二冊(明治二六年)で、島根県の「琴浜」(琴ヶ浜、現島根県大田市)の鳴砂について、「俗にこれを不思議というも、あえて怪異とするに足らざるなり。」と述べている(『井上円了 妖怪学全集』第一巻、柏書房、一九九九年、三四二頁)。

(2) 現三重県津市、阿漕浦(あこぎがうら)付近を産地とする陶器。

(3) 一丁表・補注4参照。

【三丁裏】

(1) 有田焼。佐賀県有田地方を産地とする磁器。

(2) 現岐阜県大垣市赤坂町。中山道の旧宿場町。

(3) 小代焼。熊本県、小岱(小代)山麓の地域を産地とする陶器。

(4) 礮取盧焼。淡路島、洲本(現兵庫県洲本市)の淡路製陶会社が製造した焼物。

【三丁裏】

(1) 三丁表・補注1参照。

(2) 厳原。現長崎県対馬市厳原(いづはら)町。厳原町の若田地区は硯の産地として知られる。

(3) 現岡山県備前市三石。

(4) 石の中にさらに小さな石をもつものいう。なお、現備前市三石にある三石神社は、別名を孕石神社という。

(5) マンガン石。

(6) 京都府船井郡。船井郡を含む丹波地方一帯は、マンガン鉱石の一大産地として知られる。

(7) 現神奈川県三浦市三崎町。

【四丁裏】

(1) 一丁裏・補注5参照。

(2) 現山口県萩市。萩焼と呼ばれる陶器の産地。

(3) 現愛知県瀬戸市。瀬戸焼と呼ばれる陶磁器の産地。

(4) 常陸・陸奥両国の海沿いの国境に設けられていた古代の関所。現福島県いわき市勿来(なこそ)町。

【四丁裏】

(1) 現宮城県伊達市梁川町。

(2) 「青島」という地名は全国各地にある。井上円了の出身地である新潟県三島(さんとう)郡浦村(現長岡市浦)と隣接した地域にも、青島(現長岡市青島町)という地名が存在する。

(3) 現福島県福島市飯坂町。飯坂温泉が有名。

【五丁表】

(1) 愛知県、阿寺の七滝(現新城市)の礫岩の俗称。これを祀ると子宝に恵まれるとする俗信がある。

(2) 現愛知県新城市大野。

(3) 三丁表・補注2参照。

(4) 中国、山東省の名山。名勝・古跡が多く存在し、中国五岳に数えられる。

(5) 台湾の原住民族である高山族で、漢族と同化していない人々に対して用いられた呼称。

【五丁裏】

(1) オーストラリア、ビクトリア州。

(2) カナリア諸島。スペイン。

(3) 現熊本県天草市牛深町。

(4) ニューギニア島。西部はインドネシア領、東部はパプアニューギニアに属する。

(5) 現滋賀県甲賀市甲賀町。

【六丁表】

(1) 蜘蛛貝。

(2) 小笠原諸島。現東京都小笠原村。

(3) スタンフォード大学。アメリカ、カリフォルニア州。

【六丁裏】

(1) 明治三五年(一九〇二)に建造された戦艦。日露戦争における日本海海戦の勝利などで知られる。

(2) 五丁表・補注5参照。

【七丁表】

(1) 明治一〇年(一八七七)の西南戦争。

- (2) 六丁裏・補注1参照。
 (3) 静岡県、伊豆半島中央部にそびえる連山。山麓では天城抗火石を産出する。

【七丁裏】

- (1) 燐妙鉄か。詳細不明(「妙」は砂の誤記か)。
 (2) 能義郡比田村。現島根県安来市広瀬町。能義郡一帯では、たたら製鉄が盛んに行われていた。比田村には、たたら師の職能神である金屋子神とたたら製鉄の発祥にまつわる伝承が伝えられている。
 (3) 「葉山」の地名は、現神奈川県三浦郡葉山町をはじめ、各地にある。

【八丁表】

- (4) 島根県の中央部、石見と出雲の国境に位置する山。
 (1) 詳細不明。「向島」が現東京都墨田区向島とすれば、向島百花園で焼かれた隅田川焼か。
 (2) 知井宮。二丁表・補注1参照。
 (3) 五丁裏・補注1参照。
 【九丁表】
 (1) 『西航日録』(明治三十七年)によれば、井上円了は二回目の海外視察でインドを訪れた際、「ヒマラヤ見物」を行い、楓葉を持ち帰っている(井上円了・『世界旅行記』柏書房、二〇〇三年、一七五頁)。
 (2) 蕃薯寮か。台湾。

- (3) 現東京都西多摩郡奥多摩町日原(にっばら)。日原鍾乳洞が有名。
 (4) 茨城県北西部、久慈川支流の滝川にある滝。現久慈郡大子町にある。
 (5) 伊豆諸島、大島。現東京都大島町。

【一〇丁表】

- (1) NORKAPP。ノールカップ。ノルウェー北部、マゲロイ島北端の岬。
 (2) イギリスの詩人ジョン・ミルトンの旧居。『南半球五万哩』(明治四五年)によれば、井上円了は三回目の海外視察でイギリスに滞在中、「ミルトンコテージ」を訪れている(井上円了・『世界旅行記』、三四〇頁)。
 (3) 現群馬県渋川市伊香保町。
 (4) 観賞石、盆石として珍重される。旧紀伊国(和歌山県)が主な産地。
 (5) 現山口県下関市の旧称である赤間関の別名。
 (6) 井上円了は『妖怪学講義』合本第二冊で、世に知られた「怪石」として、梅花石のほか、木の葉石、魚化石の名をあげている。そして、いまや、それらがただの化石に過ぎないことは、子どもでも知っていることだと述べている(井上円了『妖怪学全集』第一巻、五六一頁)。

【一二丁表】

- (1) 佐渡島。新潟県。
 - (2) 赤玉石。佐渡島を産地とする紅色の美しい石。観賞用などに珍重される。
 - (3) 和歌山県日高郡。
 - (4) 四丁表・補注4参照。
 - (5) 黒坂か。現鳥取県日野郡日野町黒坂。
 - (6) 黒曜石の別称。北海道十勝地方が産地として知られることから、この名称がついた。
 - (7) 伊豆大島。九丁表・補注5参照。
 - (8) 美濃国加茂。現岐阜県美濃加茂市。
- 【一二丁表】
- (1) 「月ヶ瀬」の名の付く村は、奈良県、岐阜県、福井県、静岡県に存在した。
 - (2) 天明三年（一七八三）、房総半島の鋸山中腹にある日本寺に建立。現千葉県安房郡鋸南町。
 - (3) 四国の中央部を流れる川。石鎚山地に端を発し、高知・徳島両県を流れ、徳島市内で紀伊水道に注ぐ。四国三郎の異名で知られる。
 - (4) 天橋立。現京都府宮津市。日本三景のひとつに数えられる。
 - (5) 飛騨国府。現岐阜県高山市国府（こくふ）町。
 - (6) 広東陳氏墓所。『南半球五万哩』によると、井上円

- (7) 了は第三回海外視察の際に、中国、広東（現広州市）にある「陳氏祖廟」を訪れている（『井上円了・世界旅行記』、二四九頁）。
 - (8) 飛騨神岡鉱。現岐阜県飛騨市神岡町の神岡鉱山。亜鉛・鉛等の鉱石を産出。
 - (9) 補注4参照。
- 【一三丁表】
- (1) 原文ママ。

- (1) 石斧など、石器時代の遺物に対する俗称。落雷で雷神が空から落とした物として信じられたことから、このように呼ばれた。それに対して、井上円了は『妖怪学講義』合本第二冊で、「妄談にして取るに足らず。」という見解を述べている（『井上円了 妖怪学全集』第一巻、五六四頁）。
- (2) 飛騨国府。一二丁表・補注5参照。
- (3) 補注1参照。
- (4) 四丁表・補注3参照。
- (5) 美濃養老。現岐阜県養老郡養老町。
- (6) 紫雲がかかったような紋様をもつ美しい石。
- (7) 珪酸塩鉱物のひとつ。淡い緑色でブドウの房にも似ていることから、この名で呼ばれる。
- (8) 現栃木県日光市足尾町か。足尾銅山で知られる。
- (9) 現山形県西置賜郡小国町。

- (10) 美濃赤坂。三丁表・補注2参照。
- (11) 島根県仁多郡。
- (12) 新潟県東蒲原郡。東蒲原郡にはいくつか鉾山があり、銅や鉛などの鉾石を産出していた。
- (13) 現新潟県東蒲原郡阿賀町(旧津川町)。
- (14) サイツチ(才槌)。小型の木槌のこと。
- 【一四丁表】
- (1) 曹洞宗の大本山。現横浜市鶴見区。
- (2) 井上円了は『妖怪学雑誌』第壹号(明治三三年)において、「余は全国の神社仏閣の御守り札を彙集して、他日、一大額堂を建立する意なれば、諸国の有志者より続々御守り札を惠贈あらんことを懇望す。」と述べている(『井上円了 妖怪学全集』第六巻、柏書房、二〇〇一年、一四七頁)。
- (3) バラモン教。『妖怪学雑誌』第三号(明治三三年)の口絵に、哲学館出身者の大宮孝潤(こうにん)から井上円了に贈られた「インド教徒護身靈符」が掲載されているが、大宮の説明によれば、これはヒンドゥー教徒のものという(『井上円了 妖怪学全集』第六巻、一六五・一七二頁)。
- (4) ノルウェー、ノールカップのことか。一〇丁表・補注1参照。『南半球五万哩』によれば、井上円了は三回目の海外視察の際に、「夜半の太陽」を見るこ

とを目的としてノールカップを訪れた際に、この地で石と花を採取している(『井上円了・世界旅行記』三二五頁)。

- 【一五丁表】
- (1) 一一丁表・補注6参照。
- (2) 臨済宗永源寺派の本山。現滋賀県東近江市。
- (3) 美濃養老。一三丁表・補注5参照。
- (4) 木の葉の植物化石。那須の塩原湖成層と呼ばれる地層より産出したものであろう。一〇丁表・補注6参照。
- (5) 現栃木県那須塩原市。塩原温泉郷が有名。
- 【一六丁表】
- (1) 北海道檜山郡江差町。
- (2) 忍石か。忍石(しのぶいし)は、植物化石に似た美しい模様をもつことで知られる。あるいは、現福島県福島市に位置する信夫山の石のことか。
- (3) 現福島県会津若松市東山町。東山温泉が有名。
- (4) サメの歯の化石に対する俗称。その鋭利かつ奇妙な造形から、天狗の爪として信じられ、民間信仰の対象となった。なお、井上円了は『迷信解』(明治三七年)で、天狗の爪を、雷斧(一三丁表・補注1)と同様の「石器時代の遺物」としている(『井上円了 妖怪学全集』第四巻、柏書房、二〇〇〇年、

六三四頁。

(5) 木の葉の植物化石。一〇丁表・補注6参照。

(6) 現群馬県吾妻郡草津町。草津温泉が有名。

(7) 宗谷海峡。現北海道稚内市。

(8) 九丁表・補注5参照。

(9) 橋杭岩。現和歌山県東牟婁郡串本町。直線状に岩柱

が並ぶ様子からその名がつく。井上円了は『円了隨筆』(明治三四年)で、この「橋杭」の上に「天橋」

(天橋立、一二丁表・補注4参照)を載せれば「天

然の橋梁」が完成したのに、両者は「百里の外」に

あり、残念だと述べている(『井上円了選集』第二

四巻、東洋大学、二〇〇四年、一一一頁)。

(10) 一五丁表・補注4参照。

(11) 一五丁表・補注5参照。

【一七丁表】

(1) 一〇丁表・補注3参照。

(2) 現福岡県北九州市八幡西区(旧遠賀郡香月村)か。

(3) 現石川県珠洲(すず)市、および鳳洲(ほうす)郡

の一部。

(4) 現静岡県清水区三保。富士山を望む景勝地として有

名であり、羽衣伝説の舞台としても知られる。

(5) 現富山県小矢部市田川。稲葉山は旧田川村の西北部

に位置する。

(6) 六丁表・補注2参照。

【一八丁表】

(1) 原文ママ。

(2) 熊本県天草地方を産地とする砥石。

(3) 一六丁表・補注5参照。

(4) 美濃加茂。一一丁表・補注8参照。

(5) 長野と群馬の県境に位置する火山。

(6) 現熊本県八代市(旧葦北郡日奈久〔ひなぐ〕町)。

【二〇丁表】

(1) 島根県中部、石見地方を流れる江川(こうのかわ)

支流の濁(にごり)川にある深谷。現島根県邑智

(おおち)郡邑南(おおなん)町。井上円了は『日

本周遊奇談』(明治四四年)で、石州(島根県)の

名勝について、「最も名高き絶勝は断魚溪である。」

と述べている(『井上円了選集』第二四巻、三一五

頁)。

(2) 鍬(やじり)のことか。

【二二丁表】

(1) ノールカップ太陽不没地。一〇丁表・補注1、およ

び一四丁表・補注4参照。

(2) 飛弾神岡。一二丁表・補注7参照。

(3) 六丁表・補注2参照。

(4) 笠置山という名の山は全国各地にあるが、おそらく

京都府の笠置山であろう。井上円了は『日本周遊奇談』において、「名所旧跡中、世の中へ紹介したきは笠置山である。」として、京都・笠置山の奇岩奇勝を紹介している（『井上円了選集』第二四卷、三一七頁）。

(5) 二見浦は、現三重県伊勢市（ふたみがうら）、兵庫県豊浦市（ふたみのうら）など、各地にある。

【二二丁表】

(1) 一三丁表・補注1参照。

(2) 宝飾品として珍重される。

(3) 新潟県西部に位置する火山。修験の山として知られ、山麓には関山神社がある。

(4) 隠岐島を産地とする黒曜石。

(5) 子安貝のことか。

【二三丁表】

(1) 伊豆諸島。現東京都八丈村。

(2) 九丁表・補注5参照。

(3) 火山石か。「火石」は、通常は火打石のことであるが、ここでは伊豆大島の活火山・三原山の溶岩石のことであろう。

(4) 三保ノ松原か。一七丁表・補注4参照。ただし、「三保」という地名は、このほかにも、現島根県浜田市（旧島根郡三保村）など、各地にある。

(5) 現静岡県伊東市。

(6) 土岐郡月吉村か。現岐阜県瑞浪市明世町。

【二四丁表】

(1) 佐渡島。一一丁表・補注1参照。

(2) 一四丁表・補注2参照。

(3) 中国、山東省曲阜市にある孔廟。